

## 「医療通訳英語研修」報告

第一支部運営委員会

2020年1月15日（水）13:30～16:45、「医療通訳英語研修」が港勤労福祉会館で実施されました。遠く鹿児島・広島・大阪・新潟・愛知・群馬からも参加され、会員40名、非会員5名、委員2名の計47名が参加されました。講師は、米国医学博士、国際医療通訳アカデミー主任講師でJGA正会員でも



あります中村春木先生にお願いしました。

昨年に続き2回目になるため今回は昨年の復習として病名を確認し、後半はオリンピックを意識し、日射病を想定した教材を使いロールプレイ形式で研修しました。

前半は、「医療通訳の心得10カ条」としてガイドが通訳時に守るべき基本的な姿勢の説明がありました。次に「医療現場で通訳するための基礎用語」、「外国人医療の現場」の話があり、どの項目も見逃せない点であるとの認識を新たにしました。その後、中村先生から病気の名前、診療科目の英語名の説明がありました。病名の読み合わせをしましたが、読み方が難しかったり、病気に相当する語が思い浮かばないときには自分が知っている英単語を使い説明すると良い、との話がありました。

後半は、実際の医療現場を想定した会話問答のテキストの読み合わせをし、3人1組になりロールプレイ形式で練習をしました。医師、患者、通訳とパートを変えて練習をするのですが、かなり長いテキストで時間がかかりましたが、参加者は大変熱心に練習をしていました。その間、講師の中村先生はグループの間を回り指導をしてくださいました。このテキストは日射病を想定したのですが、病名を変えることで他の病気や怪我で病院を訪れるときにも対応できるとの話が中村先生からありました。



最後の質疑応答では、「会計はどうするのか?」「通訳者が気をつけるべき問題は何か?」等が出されました。中村先生からは、「何を聞くか前もって患者に聞いておく。」「最近、未払で帰国する患者が増えている。」「余分なことは言わない。正確に話す。わからないなら確認してから通訳する。」等のアドバイスをいただきました。

参加者からは、「医療研修なので、病名等難しい語が出てくるのは覚悟していたけれど今後の勉強のきっかけがつかめました。」「ガイド中にお客様が病気や怪我に会われたらどうしよう、と少し不安を抱きながらガイドをしていましたが、今回の研修で、少し気持ちが和らぎました。でも、もっと勉強しなくては。』といった声が聞かれました。

参加された皆様少し疲れた様子でしたが中身の濃い研修ができました。